



社会教育

アドバイザー通信

第 7 号

平成28年 1月26日
発行 秋田県教育委員会
編集 南教育事務所



新しい年を迎えました。県南地区は暖冬とはいえ、お正月明けから雪との闘いに追われる日々が続いています。寒い毎日ではありますが、各地区の子ども教室では、子どもたちの元気な声が飛び交い、様々な楽しい活動が展開されていました。

冬季事業訪問より ~冬は友達！みんなで楽しく~

1/6 「みんなで楽しく遊ぼうDAY」 (湯沢市キッズステーション幡野)

湯沢市では、総合的な放課後対策を推進するため、放課後子ども教室「キッズステーション幡野」と倉内団地児童クラブ「さくらっこ」が連携し、地区の子どもたちが交流し活動を楽しむ実践が行われました。連携した取組は今回初めてです。

子どもたちは、ダンスやボール遊び等でたっぷりと体を動かし、体育館には大きな歓声が響いていました。活動には児童クラブの卒業生や以前研修に来たという大学生の参加もあり、地域への広報を通して大人を巻き込みながら、地域ぐるみで子どもたちを育てようとする気持ちが伝わってきました。



1/12 「おはなし会&糸電話づくり」 (横手市大雄子ども教室)

「おはなしはっぴい」によるおはなし会では、読み聞かせや昔がたりが披露され、子どもたちは方言による昔話を楽しんでいました。また糸電話づくりの活動では、教育活動推進員が子どもたちの様子をしっかりと見取りながら活動が展開されていました。

大雄地区では、平成15年度に独自に立ち上げた「大雄母親グループはんどはんど」のメンバーのほとんどが、教育活動推進員として活動しているそうです。放課後児童クラブや小学校の防犯教室を手伝うなど、小さいコミュニティならではの強いつながりがうまく機能しているように思えました。



子どもたちは、運営を手伝ってくれた高校生や大学生と仲良く談笑し、新たな出会いも楽しんでいるようでした。若い世代が子どもたちと一緒に活動する姿はほほえましく、地域にも元気を与えてくれるのでしょう。こうした連携で広がるよさを皆で共有し、他地域にも波及してほしいと思いました。また、我が子を見る目線で子どもたちを見守り、優しく声をかけてくださる教育活動推進員等や地域の方々の姿からは、「地域の子どもは我が子と同じ」という熱い思いが伝わってくるようでした。

横手市わくわく子ども教室スタッフ研修会



横手市では、わくわく土曜教室のコーディネーターと教育活動推進員を対象にした研修会を毎年行っています。12月21日の研修会には、10教室のスタッフの方々29名が参加しました。

元社会教育アドバイザーの石川喜美子先生による講話では、「集団を動かす」というテーマで、教室運営の鍵となる指導技術を詳しく教えていただきました。「活動予定が見える」「子どもたちが自ら動けるような指示を出す」「活動を誉めてよさを認める」「自己肯定感を高める」等の内容は、わくわく子ども教室を運営するスタッフの方々にとってはタイムリーなものでした。また、楽しさを実感させるために、すぐできる風車づくりを通して具体的な指示の出し方を示され、教室運営にすぐ生かせる技術を伝えておられました。



「いろいろな活動を子どもと一緒に楽しんでほしい。自分が楽しいことは子どもも楽しいもの。子どもたちのガキ大将になってほしい。」と熱く語る石川先生のお話に、釘付けとなったひとときでした。参加者の大きなうなずきも心強く思いました。

リレーコラム ～家族を笑顔にする10のヒント～

子どもたちの心の居場所は家庭であり、家族の存在は大きな支えとなります。温かい家庭のぬくもりの中で育った子どもは、自分を大切にしますし、周りの人との人間関係も良好に築くことができます。

県教育委員会では、子どもたちの健やかな成長を願って、それぞれの家庭で取り組みたいことを「家族を笑顔にする10のヒント あきたのそちから！」としてまとめました。ここには、家庭で取り組みたいことや心がけたい内容が示されており、県教育委員会のホームページにも掲載されています。

今回の通信から「あきたのそちから！」の項目毎に、4人の社会教育アドバイザーがコラムを担当します。第1回目は、「あいさつ」についてです。

家族を笑顔にする10のヒント



家庭は教育の原点であり、すべての出発点です。

秋田県教育委員会では、子どもたちが元気で、夢をもって、地域と関わりながらたくましく育つよう、家庭で取り組みたいことを「10のヒント」としてまとめました。

あいさつ、基本的な生活習慣、人に対する思いやり、ルールやマナーなど、家族を笑顔にする9つのヒントに加え、「わが家のプラス1」からできています。皆さんも家族で大切にしたいことを、みんなで話し合ってみませんか。

家庭教育は「あきたのそちから！」。

秋田県教育委員会

あ

あいさつは「魔法のことば」！「おはよう」から始まるすてきな一日

明るいあいさつ一言で心が通い、相手との距離も縮まります。「おはよう」「こんにちは」「ただいま」…子どもがすすんで気持ちよくあいさつするよう、家庭や地域で、親が手本を示しましょう。

☆ あいさつは、集団の中で人と人がうまく関わっていくための出発点です。学校や地域社会で交わすあいさつは、人と人とをつなぐ潤滑油にもなります。その第一歩が家庭でのあいさつです。「おはよう」は新たな一日を始めようとする呼びかけであり、生活にメリハリを与えてくれます。

☆ 子どもは、親や祖父母が率先してあいさつしている姿を見て、あいさつの習慣を身に付けていきます。家庭で明るいあいさつが交わされていれば、下記の小学生の詩のように、自分自身もあいさつで幸せな気持ちになれるのではないのでしょうか。家族の笑顔や明るい表情、あいさつは元気の源です。今日という日がすてきな一日となるよう、気持ちのよいあいさつをかわしたいですね。笑顔であいさつをし合うことで得られる幸せな気持ちは、子どもの感性をさらに豊かなものにしてくれることでしょう。

☆ 家庭であいさつが自然に口からでてくる子どもは、家庭の外でも気持ちよくあいさつし、周囲の雰囲気をも明るく和やかなものにしてくれます。それは、あいさつには相手の心を開かせる効果があるからなのではないのでしょうか。あいさつすることで生まれるコミュニケーションは、人間関係が希薄になってきた現代社会をよりよく生きる上でのエネルギーにもなります。まさにあいさつは、心と心をつなぐ「魔法のことば」です。子どもの財産として培っていきたいですね。

「おはよう」というと 目がさめる
「いただきます」というと おなかのすく
「いってきます」というと げんきになる
「ありがとう」というと きもちがいい
「ごめんなさい」というと ほっとする
「おやすみなさい」というと いいゆめみられる
あいさつってうれしいな

<ある小学生の詩より(愛知県)>



※学校報等で御活用ください。